

2022. 7. 15

報道関係者 各位

< 配信枚数2枚 >

【立命館土曜講座のご案内】

8月テーマ「帝国日本の戦争と労働者・女性
一戦時動員と植民地支配、『引揚げ』の歴史から考えるー」

開催日時：2022年8月6日(土)・27日(土) 10:00~11:30

開催方法：オンライン(Zoom ウェビナー)

8月の立命館土曜講座は、立命館大学国際平和ミュージアムの企画として、「帝国日本の戦争と労働者・女性一戦時動員と植民地支配、『引揚げ』の歴史から考えるー」をテーマに、オンライン(Zoom ウェビナー)で開講いたします。

どなたでも無料で受講いただけますので、ご関心のある方のご参加をお待ちしております。

記

■立命館土曜講座 8月テーマ「帝国日本の戦争と労働者・女性一戦時動員と植民地支配、『引揚げ』の歴史から考えるー」

(1)第3364回「アジア・太平洋戦争と『徴用工』ー帝国日本の労働力動員ー」

日時：2022年8月6日(土) 10:00~11:30

講師：茨城大学人文社会科学部 准教授 佐々木 啓

(2)第3365回「彼女たちの引揚げー性暴力被害者の帰還と『混血児』排除をめぐるー」

日時：2022年8月27日(土) 10:00~11:30

講師：立命館大学文学部 准教授 山本 めゆ

開催方法：オンライン(Zoom ウェビナー)

内 容：別紙参照

聴 講 料：無料

定 員：400人 ※実施2日前17:00までに要事前申込。定員に達し次第、受付を終了。

申込方法：立命館土曜講座のWEBサイトよりお申し込みください。

<http://www.ritsumeikan.ac.jp/acd/re/k-rsc/kikou/doyokozakikoh.htm>

主 催：立命館大学衣笠総合研究機構

そ の 他：文字通訳を配信しています。

以上

本リリースの配布先：京都大学記者クラブ、草津市政記者クラブ、大阪科学・大学記者クラブ

●内容についてのお問い合わせ先

立命館大学衣笠総合研究機構 担当：武田・堀

TEL.075-465-8224

別紙

■立命館土曜講座 8月テーマ「帝国日本の戦争と労働者・女性―戦時動員と植民地支配、『引揚げ』の歴史から考える―」

(1)第 3364 回「アジア・太平洋戦争と『徴用工』―帝国日本の労働力動員―」

日時：2022年8月6日(土) 10:00～11:30

講師：茨城大学人文社会科学部 准教授 佐々木 啓

講師による内容紹介：

日中戦争期からアジア・太平洋戦争期にかけての日本では、国家総動員法などの法令に基づき、多くの人びとが軍需産業に動員され、労働することを求められました。日本人の男性はもちろん、女性や学生、あるいは植民地支配下にあった朝鮮人や占領地の中国人なども動員され、国家総動員体制は「帝国」という枠組みを拡張させながら広がっていきました。当然ですが、階層や出自、動員先などによって、人びとの労働体験はさまざまであり、実態には大きな差異がありました。例えば同じ国民徴用令に基づく「徴用」であっても、日本人と朝鮮人の体験は大きく異なっています。その違いがどのような背景の下に生じたのかを検証することは、日本の戦時体制全体のあり方を理解する上でも重要な要素となると思います。本講演では、動員された人びとが具体的にどのような体験をすることになったのかを各種史料に基づいて検証し、帝国規模での労働力動員の重層的な構造を明らかにしていきたいと思います。「徴用工」問題が日韓関係の焦点となっていますが、その前提となる歴史的な実態について考える機会となれば幸いです。

(2)第 3365 回「彼女たちの引揚げ―性暴力被害者の帰還と『混血児』排除をめぐる―」

日時：2022年8月27日(土) 10:00～11:30

講師：立命館大学文学部 准教授 山本 めゆ

講師による内容紹介：

敗戦を前にした関東軍の撤退とソ連軍の侵攻、戦後の引揚援護政策の遅延などにより、満洲や朝鮮半島北部に残された民間人は剥き出しの暴力に晒されました。ソ連兵による性暴力は酸鼻を極め、さらには治安維持等の必要からソ連兵や中国人らに女性が「供出」されることも珍しくありませんでした。これらの性暴力被害者が帰還した引揚港の周辺では、性病の治療とともに、相当数の人工妊娠中絶が実施されたことが記録されています。当時違法であったはずの中絶は、なぜ、どのようにして可能になったのでしょうか。従来、この問いをめぐるは、おおまかに二種類の説明が提示されてきました。「混血児」の急増を懸念した厚生省が各地の引揚援護局に指示したとする説(「上から」説)と、中央は無策に近く、むしろ女性たちの窮状を目の当たりにした現場の医師たちの英断と献身に支えられていたとする説(「下から」説)です。本講座では、聞き取り調査から得られた関係者の語りを手がかりにしながら、引揚女性の中絶が引揚援護施策と現場の医療者たちとの協働によって実現したことを示していきます。

■立命館土曜講座

1946年から続く、市民向けの無料公開講座。故・末川博名誉総長の「学問や科学は国民大衆の利益や人権を守るためにある。学問を通して人間をつくるのが大学であり、大衆とともに歩く、大衆とともに考える、大衆とともに学ぶことが重要」との思いのもとに、大学の講義を市民に広く開放し、大学と地域社会との結びつきを強めることを目指しています。

<WEB サイト> <http://www.ritsumeai.ac.jp/acd/re/k-rsc/kikou/doyokozakikoh.htm>